

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203030		
法人名	有限会社ほほえみ		
事業所名	グループホームほほえみの家		
所在地	岡山県倉敷市下庄457-1		
自己評価作成日	平成23年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370203030&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成23年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「個人を尊重しその人らしく生活できるように援助する」を理念に、入居者様の意思を尊重し、その方一人ひとりのペースに合わせ、尊厳のある暮らしができるように支援している。人事考課制度を導入しサービスの向上が図れるように職員のスキルアップを目指している。また認知症プロジェクトや接遇委員、感染委員などの参加や研修等に出席して、職員がともに学び合い向上心を持って取り組んでいる。音楽療法、アニマルセラピーは現在も取り入れており、入居者様の心身の活性化に繋がっている。外出行事を企画して、地域のお店や外食やピクニック、買い物などにも出掛けている。隣にえんさこ医院があり、いつでも24時間対応可能である。入居者様の心身の変化や異常発生時に気軽に相談でき、日常の異変に素早く対応できるので入居者様、ご家族様も安心して生活ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の平均年齢93歳と高齢ながら、一人ひとりが残存機能を生かし、もてる力を発揮しながら生活できるよう支援が行われている。職員のスキルアップに相互評価や人事考課を採り入れ、サービス向上に前向きに取り組んでいる。職員間のコミュニケーションも良く、利用者も穏やかに生活できている。地域の行事に参加したり、法人が開講する認知症サポーター養成講座を地域住民が受講されるなど、地域との交流も図られている。記録類が整理されており、支援に生かされるよう書式が工夫されている。毎月発行されるホーム便りには、職員の手書きによる手紙が添えられて、離れて暮らす家族に安心が得られるような配慮も見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に、職員がクレドを唱和している。毎月目標を決め自主評価・他者評価を行い、同じ理念を持って取り組んでいる。またカンファレンスで具体的なケアについての統一を図っている。	毎日、朝礼で理念を唱和するとともに、月毎に具体的な目標を決めて取り組んでいる。スマイル&コミュニケーションをモットーとし、接遇についてお互いにチェックしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩など道行く人に気軽に声をかけあっている。また庄ふれあい祭り、運動会など地域の方との交流を行っている。	ふれあい祭りや運動会、文化祭などの地域の行事に参加し、交流を図っている。商業施設も多く、地域の一員として利用する機会を作っている。地域にある教育施設から体験学習や実習の要請があれば柔軟に受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を開催し地域の方々へ認知症の人の理解を深めている。「ほほえみの家だより」の新聞を発行したり、ホームページ上にて生活の様子を公開し、月一回更新している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、民生委員、ご家族様、入居者様、管理者等が出席し2ヶ月に1回実施している。ご家族様の意見も多くあり、サービスの向上に活かしている。	年6回、運営推進会議を開催している。毎回各ユニットから利用者と家族の代表が交代で参加し、意見交換がなされている。家族が参加することで、利用者についての新たな情報が得られる機会にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と日頃から事業運営などについて、相談し助言を受けている。	運営推進会議に包括支援センター職員が出席できない時には、市の担当職員が参加するなど、協力関係が築けている。介護予防教室に利用者の参加を呼び掛けてもらう機会もあり、コミュニケーションが図れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロのハンドブックを解説し、職員の意識を高めている。正面玄関は鍵をかける対応をしている。職員の見守りを強化し、自由な暮らしが出来るように支援している。	拘束をしないケアをめざして取り組んでいるが、利用者の身体状況や安全面からやむを得ない場合には、家族の意見も聞きながら方法を検討している。言葉による拘束にも注意し、制止や命令口調にならないよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する理解を持って、日々業務にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	院内研修会を開き職員の理解を深めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはケアに関する考え方や取り組みを丁寧に説明している。又改定や利用料の値上げを行う場合は、個別にご本人様、ご家族様に説明を行い納得が得られるようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。また年に1回、家族会の際にアンケートをとっている。運営推進会議やご家族様の面会時にも要望などを聞いている。入居者様からの要望は日常の会話から拾い上げ対応できるよう努めている。	年2回家族会を開催し、意見を聴く機会を設けたり、家族アンケートを実施している。運営推進会議には、家族にも順番に参加してもらっている。面会時には積極的にコミュニケーションを図り、意見を表し易いように配慮している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1年に1回職員の個人面談をして、意見を聞き入れている。また日頃よりコミュニケーションを図り、お互いが何でも言いやすい関係を築くように努めている。	毎月1回、カンファレンスを開催し、活発に意見交換を行っている。年1回は各ユニットの管理者による個人面談が行われ、個別に職員の意見を聴く機会も設けている。毎日の朝礼には施設長が参加しており、相談し易い環境である。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は毎朝の申し送りやカンファレンスに参加している。職員の現場の状況や変化なども把握している。人事考課をし職員のモチベーションが向上できるように働きかけている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は必ず1年に1回、全職員が受講している。研修内容は文章にまとめ、スタッフ全員に回覧している。院内研修は一人でも多くの職員が受講できるように勤務人数に配慮している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業者連絡協議会やGH協会での研修に参加し情報交換を行いお互いに向上を目指している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様とは事前面談をして生活状況の把握をしている。また困っていることや不安なことに寄り添い、小さな事でも真剣にお聞きし、安心して頂けるように、コミュニケーションを密にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のお話に、しっかり耳を傾け、その気持ちを受け止めながら、一つ一つ解決していけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所で出来ることは可能な限り、対応させて頂いている。また必要に応じて他のサービス機関につなげる等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全職員は入居者様は人生の大先輩であるという考えを持ち、常に感謝の気持ちを忘れず、「ありがとう」の言葉を伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ゆっくりお話ができるように、居室へご案内しお茶をお出しする等の配慮をしている。また入居者様の日常生活や健康状態の報告をご家族様へお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までに行かれていた美容院へ行ったり、また近所の友人、知人が遊びに来られる。その際は、お部屋でお茶を飲みながらゆっくり過ごされている。	馴染みの美容院に行ったり、近所の友人が訪ねて来やすいよう配慮している。墓参りや仏壇参りには家族の協力を得ている。外出の機会には、行ってみたい所を尋ね、住み慣れた場所を通してみる等の配慮も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カルタ取り、坊主めぐり、パズル、体操等、みんなで楽しく過ごす時間を、レク活動に取り入れている。入居者様同士トラブルがないように職員が間に入り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談に応じています。サービスの利用が終了された場合は、必要に応じて情報提供書やこれまでの経緯やケアの対応などを伝え、連携をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様からの要望の聞き取りを行い、カンファレンス等で話し合いをし職員のケアの統一を図る。意思疎通の困難な方は表情やしぐさ等で読み取り、相手の気持ちになって考え対応している。	日頃の会話の中から、思いや意向を把握することに努めている。困難な場合には、表情やしぐさから読み取るように努めている。発語の少ない利用者には、返事がしやすいように問いかけをして、気持ちの確認をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや生活暦など入居に至るまでの状況を把握し、日々の関わりの中で、プライバシーに配慮しつつ、さらに具体的な情報が得られるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスや毎日の申し送り等で一人ひとりの生活の様子や過ごし方、動作から感じ取り、ご本人様の全体像を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回カンファレンスを行っている。訪問看護師、施設長と共に意見交換をしながら、ケアプランの見直しをしている。ご本人様やご家族の要望もお聞きしケアプランに入れている。	毎月1回カンファレンスを開催し、個々の利用者について職員間で意見交換をしている。家族や利用者の意見を聞きながら、概ね6か月ごと、変化のあった時にはその都度計画を立て直している。計画は、家族に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に入居者様の身体状況や観察、気づき等を記録している。また重要申し送りノートや医療ノートを活用し、職員間での情報を共有している。ケアプランの評価や総合評価も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時は、必要に応じて、病院の受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの職員、民生委員の方の活発な意見により地域の情報交換が出来るように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医で行っている。ご本人様、ご家族様の希望があればその病院へも受診している。訪問歯科も対応できるように支援している。	利用者や家族の希望を大切に受診先を決めている。受診時の送迎は家族にお願いしているが、近医の場合には職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一日の入居者様の健康状況経過を記録し看護師に毎日、報告している。また一週間に一度、訪問看護師による健康チェックを行っている。相談や助言も、しやすい環境である。24時間対応で早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、医療機関に情報提供書をお渡し情報を伝える。入院中は、ご家族様や医療機関との連絡をとり情報交換をしながら退院時の支援を行っている。またお見舞いをしてご本人様の状況を把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様とご家族様の意向を確認しながら、院長、看護師、職員との連携を密にししながら、安心して最期が迎えられるように取り組んでいる。その都度、家族に連絡をして確認をしながら支援している。	入居時には、重度化した場合や終末期の対応について本人や家族の意向を確認している。状況に変化があれば、その都度改めて意向を確認し、具体的な同意内容を同意書に記述している。現在までに、5名の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成して周知徹底している。ミーティングなどで見直しを行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力体制を築いていけるように運営推進会議で意見交換をしている。また年2回避難訓練を行っている。通報訓練や初期消火訓練も自主的に行い、入居者様を安全な場所に避難させる訓練をしている。	火災を想定した避難訓練は、年2回開催されている。地域の協力が得られるよう、近隣住民には個別にお願いにあがっている。運営推進会議でも、協力が得られるよう働きかけている。	地震や水害に対し、具体的な対策を検討されることを望む。消防署職員に、運営推進会議への参加を要請したり、地域住民に避難訓練に参加してもらう機会を作ることも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時に個人情報保護の守秘義務の誓約書を交わし管理体制をとっている。常にご本人様の気持ちを大切に、さりげないケアを心がけている。	声の大きさ、トーン、話すペース、命令口調でないか、丁寧な言葉遣いか、滑舌は良いかなどのチェックポイントを毎日唱和し、お互いにチェックし合っている。職員は利用者を尊重し、なれ合いにならないよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様に決めてもらえるように働きかけをしている。一人ひとりの状態に合わせて答えやすい方法を心掛けている。また職員が押しつけることのないように注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、その方に合わせた対応をし、ご本人様の要望や希望はないか尋ね、取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身支度は自分でタンスから衣類を出して好きな服を着て頂いている。また何種類か用意し選んで頂く。毎日お化粧をして、口紅をつけ、おしゃれを楽しんでいる方もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、もやしのひげとり、お米を研ぐ、盛り付け、料理、おやつ作り等を入居者様と一緒にやっている。食事と一緒に同じテーブルで食べている。	利用者の好みを聴きながら、献立を作っている。一人ひとりの嗜好に合わせて、嚥下等の身体機能に合わせて、ミキサーにかけたり刻みにしたりしている。毎月1回、みんなで外食に出かけるなど、食事を楽しむ支援を心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の食事摂取量を把握して記録している。食事が進まないときは、食事の形態を工夫しながらその方に食べやすい物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて口腔ケアを行っている。自分でできない方は、一人ひとりの状況に応じて、声かけや介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排尿パターンに合わせ、定期的にトイレ誘導をしている。紙パンツやパットも個々に応じたものを使用して頂き、見直しを行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はできるだけトイレで排泄できるように支援している。排泄の自立に向けた支援で、入居当時は排泄の介助が必要であったが、現在は自立できている利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘ぎみの方には、牛乳、ヨーグルト、ヤクルト等の飲み物を勧めたり、水分補給や食べ物に気をつけている。適度に身体を動かす、体操や風船バレー、散歩などの働きかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できるようにしている。ご本人様の希望をお聞きしながら確認をして入って頂いている。入浴できない方は、足浴器を使用して足のケアを取り入れている。	夏場には、毎日シャワー浴をする方もいる。一人ひとりの希望を聞きながら、ゆっくり入浴できるように支援している。入浴拒否がある方に対しては、人を変えたり日を変えるなど、タイミングを見ながら支援し、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日のリズムが保てるように、ソファや居室で休んで頂く等、個々に合わせた対応をしている。夜間なかなか眠れない方には、温かい飲み物を出したり、お話をして落ち着いて頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能、副作用等の説明書をファイルに保管して常に確認できるようにしている。また薬の変更があった場合は、医療ノートの申し送りなどで、変化を確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、食器拭き、食事の準備、花の水やり、ゴミ捨て等、その方の得意分野を活かせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換が出来るようにドライブにお誘いしている。定期的に毎月、お出かけプランを入居者様と一緒に計画している。行きたいところへ行ったり、外食やお弁当を持ってピクニックに出かけている。またご家族様と一緒に外出され、食事をして帰られることもある。	周辺を散歩したり、毎月外食に出かけるなど、外出の機会が多い。家族と一緒に美容院に行ったり、仏壇のお参りに帰宅される方もいる。庭先や隣接するえんさこ医院の広い敷地も、散歩コースになっている。外出機会の少ない利用者も、ウッドデッキで外気に触れる機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を管理されている人もいます。ご家族様よりお金を預かり、買い物に行く時は、ご自分で支払って頂けるように手助けをしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い、年賀状を出す為の支援を行っている。また自分の手作りの折り紙の作品を親族に手紙を添えて送る手助けをしている。ケータイや電話が出来るように手助けしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁画、絵画、季節の生花を飾るなど、生活感を感じて頂けるように気配りをしている。入居者様に馴染みのあるものを生活の中に取り入れている。	天窓から穏やかな明るい光が採り入れられ、落ち着ける環境である。利用者は、ソファでくつろいだり、職員とおしゃべりをしたり、ジグソーパズルなど思い思いに過ごしている。ピアノや雑誌などが置かれ、好きなことに取り組めるよう配慮されている。装飾は季節感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや正面玄関にソファを設置している。デッキには机や椅子を置いて、いつでも、好きな時間に仲良しのお友達とお話出来るように、環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた物を、持って来て頂いている。家族の写真を貼ったり、アルバムなど置いている。	冷蔵庫、仏壇、テーブル、タンス、テレビなど使い慣れた道具、家族写真や作品を配置している。利用者の性格やこだわりに配慮した居室となっている。床に布団を敷いている方もあり、個々の生活スタイルや状況に合わせて工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、風呂場の手すりは身体状況に合わせて手すりを設置している。正面玄関や西裏口をスロープにし、入居者様が移動しやすいように、安全に配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203030		
法人名	有限会社 ほほえみ		
事業所名	グループホーム ほほえみの家		
所在地	岡山県倉敷市下庄457-1		
自己評価作成日	平成23年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370203030&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成23年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「個人を尊重しその人らしく生活できるように援助する」を理念に、入居者様の意思を尊重し、その方一人ひとりのペースに合わせ、尊厳のある暮らしができるように支援している。人事考課制度を導入しサービスの向上が図れるように職員のスキルアップを目指している。また認知症プロジェクトや接遇委員、感染委員などの参加や研修等に出席して、職員がともに学び合い向上心を持って取り組んでいる。音楽療法、アニマルセラピーは現在も取り入れており、入居者様の心身の活性化に繋がっている。外出行事を企画して、地域のお店や外食やピクニック、買い物などにも出掛けている。隣にえんさこ医院があり、いつでも24時間対応可能である。入居者様の心身の変化や異常発生時に気軽に相談でき、日常の異変に素早く対応できるので入居者様、ご家族様も安心して生活ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に愛されるグループホームを目指し、地域の人々との関係づくりに取り組んでいる。「個人を尊重し、その人らしく生活できるように援助する」を理念として、支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の運動会や文化祭などに参加したり、地域の奉仕活動としてゴミ拾いに参加し、地域の人々と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回のホームページ作成にて地域の方にグループホームの様子について掲載している。ほほえみたよりの新聞も作成し、外部の方にも見ていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催している。家族の方もほとんど参加していただき、貴重な意見や要望を聞くことができている。質の向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて包括支援センターの方が毎回参加して下さり、意見交換を行ってアドバイスを頂き、行事・研修などの案内を教えてください。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修を行い、職員全員が研修の報告を行い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。職員一人一人が常に意識できるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、勉強会などを行い、言葉による虐待等もないようにし、入居者の方に安全に生活していただけるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加したり、包括支援センターの方にその都度お聞きし、学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様、ご家族様が理解・納得できる様十分時間を取り、説明をしている。また、ご要望などがないか、こちらからお聞きするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の方と包括支援センターの方や民生委員の方とお話する機会がありますのでこれからもこの場を大切にしていきたい。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご意見箱を設置している。また年に1回、家族会の際にアンケートをとっている。運営推進会議やご家族様の面会時にも要望などを聞いている。入居者様からの要望は日常の会話から拾い上げ対応できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	受診や外出行事などにあわせ、勤務体制を整えるようにし、安全に仕事が行えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修は月1回開催している。院外研修は1年に1回参加するようにしている。定期的に職員全員でマニュアルの見直しを行い、ケアの統一を図れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	えんさこ医院グループによる全体での研修を行い、各部署の方とコミュニケーションを図りながら、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、話し合いを行うとともに、入居者様がグループホームの雰囲気馴染める様に見守りの期間を設け安心して生活していただけるように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に訪問させていただき、ご家族の希望・不安や困っていることなど、お話を聞く時間を十分にとり、お気持ちを受け止めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、状態・状況等お話を聞きし、何を必要としているのか見極め、他のサービスの提案もさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様主体の生活の中、共に活動する時間を大切に、日々の生活の中でも、共に笑い、ご入居者様の話に耳を傾け共感し、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の近況状況や、健康状態の変化報告など、面会時はお話をさせていただいている。ホームへの行事には参加を呼びかけ共に楽しむ場を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所に住んでいた方の面会など、気軽に足を運んでいただけるようなホームにしようと雰囲気作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士で自然に支えあえるように時には職員が間に入り、上手く仲をつなぐようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、ホームに相談などがあれば情報を提供し、家族との関わりをもつようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図り、ご入居者様の声に耳を傾け、ご本人の希望の生活ができるよう協力をしている。職員全員が入居者様の立場にたったケアを心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に、ご本人様・ご家族様よりお話を聞き、アセスメントシートを作成し、職員が把握できるようにファイルしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の生活状況を個人記録に細かく記入を行い把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの中でご家族の要望や一人ひとりのケアについて職員全員で情報交換を行い、ケアの統一が図れるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での小さな気づきや、ご本人様の言葉など、細かく個人記録などに記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて皮膚科受診などご家族が付き添えない時は職員が変わりに対応し、柔軟に対応ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて民生委員の方と話し合いの中で情報を取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様の希望するかかりつけの病院に受診をしていただき、ご家族の方とはとても協力的である。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションに来ていただいている。状況変化や対応について気軽に相談でき、連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要な情報を提供し、病院関係者と連携をとっている。お見舞いに行かせていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合の対応についての方針をお渡しし、説明を行っている。事業所の出来ること出来ないこととお話し、主治医との話し合いの場を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成している。急変があればその都度職員に対応等の指導を行っている。他の職員にも伝達を行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として、年2回避難訓練をおこなっている。毎年いろんなところからの出火を想定して訓練をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月1回のカンファレンスの中で丁寧な言葉遣いの見直しを行い、日頃から実践できるようにしている。。そして日頃から職員同士で注意や反省を行うようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定しやすい声かけ、希望をしやすいような環境を作るようにしている。その人にあった声かけを工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内で一日の流れはありますが、入居者様中心の生活ですので、その方のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整容していただき、着替えの時はどの服が良いか選んでいただいている。2ヶ月に1回移動美容がきてくれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人様が出来る事、簡単なお手伝いしていただいている。一緒に作っていただいたものを職員も一緒に会話を楽しみながら食べるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み物の種類を増やし、好きなものを飲んでいただけるようにしている。糖尿がある方にはシュガーカットを使用し、カロリーを控える工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声かけ援助を行っている。義歯のない方も、必ず、うがいをさせていただくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライドを傷付けないように声かけ、誘導を行い、気持ちよく排泄ができるように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽い運動を行ったり、水分補給を行い、便秘の解消を行っている。食物繊維の入った飲み物を飲んでいただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じ入浴支援を行っている。入浴前にご本人に声かけを行い希望の時間等をお聞きし、できるだけ希望に沿えるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人一人の生活リズムを把握し、安心して休息できる支援を行っている。ほとんどの方がよく休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が飲まれている薬の表を作り、職員がいつでも確認出来るように各ユニットにおいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・掃除・洗濯物たたみ・水遣りなどその方にあった、家庭的な活動を支援している。ご本人の得意とすることや趣味など活躍できる場を見つけ、日々楽しく過ごせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や外気欲を行っている。面会時や手紙などでご家族様と連絡を取り、外出する楽しみを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金の管理が出来る方はお任せしてしている。お小遣いを残高が少なくなると家族の面会時にお小遣い手帳を確認していただいて請求をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は、ご本人の希望があれば自由に電話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな物音を立てないように心掛けている。光の調節等も行っている。ホールやキッチンなどには家庭で使用している食器を使用していたが、重い食器が持ちにくい方には軽い食器で対応させていただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設周辺の自然環境が豊かで、窓やテラスからの景色が四季を感じさせてくれる環境となっています。隣のユニットの方とも交流が深められる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール全体が見渡せるように、ソファを置いて自由に過ごしていただくようにしている。一人一人がくつろげる空間にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の意見・ご要望など入居者様の気分を考慮し、思いや意向を積極的に取り入れられるようにしている。過剰な介護をさげ、必要に応じて介助を行っている。		